

セーシエルの教育や学校生活の様子

2025年11月
在セーシェル日本国大使館
広報文化班

1. セーシエルの概要

セーシェルは、アフリカ大陸の東約1,600kmのインド洋に位置し、115の島々から成る島嶼国です。国土面積は約460km²で種子島とほぼ同じ大きさです。最大の島であるマヘ島（約150km²、小豆島とほぼ同規模）には首都ビクトリアがあります。

セーシェルは、常夏の気候と美しい海に恵まれた世界有数のリゾート地として知られ、英国のウィリアム王子とキャサリン妃がハネムーンを過ごしたことで有名です。セーシェルには、世界で2番目に大きな環礁であり、ゾウガメの生息地としても知られる「アルダブラ環礁」（マヘ島から南西約1,000km）と、世界最大の実をつける「双子ヤシ（ココ・デ・メール）」を保護する「ヴァレ・ド・メ渓谷自然保護区」（プララン島）の2つの世界自然遺産があります。

人口は約12万人で、国民の約90%がキリスト教徒です。公用語は英語、フランス語、クレオール語の3言語です。

一人当たりGNIがサブサハラ・アフリカで第1位と高く、経済状況も良好ですが、観光業と漁業への依存が大きく、さらに気候変動の影響も受けやすいなど、小島嶼国としての課題を抱えています。そのため、引き続き国際社会からの支援が必要とされています。

また、セーシェルは日本の排他的経済水域（EEZ）の約30%に相当する広大なEEZを有しており、気候変動対策や海洋資源の保全、海洋安全保障などを含む「ブルーエコノミー」政策の推進に力を入れています。



アルダブラ環礁



双子ヤシ（ココ・デ・メール）



ゾウガメ

2. 日本とのつながり

セーシェルは、潜在力あふれるアフリカと成長著しいアジアを結ぶインド洋上に位置し、法の支配や民主主義などの基本的価値観を共有する日本の重要なパートナーです。

セーシェルは、1756年にフランス領となり、1814年にイギリス領となった後、1976年6月29日に独立しました。日本はセーシェルの独立と同時に同国と外交関係を樹立しており、2026年には両国の外交関係樹立50周年を迎えます。

今から120年ほど前に、京都府宮津市出身の大橋申廣氏がセーシェルで写真師として活躍し、地元の街並みや人々の生活、ゾウガメ、自然などを写した写真絵はがきを多数製作し、セーシェルで貴重な歴史的史料となっています。

1980年代には、年間約2万5千人の日本人がセーシェルを訪れていたと言われています。日本では、松田聖子の「セイシエルの夕陽」やサザンオールスターズの「セイシエル～海の聖者～」といった楽曲でも知られています。また、日本で消費されるキハダマグロやメバチマグロなどのマグロ類の約10%はセーシェル産であり、意外なところで日本とのつながりがあります。

3. セーシェル教育の概要

(1) 初等教育・中等教育

初等教育（P：プライマリー）は1年生（P1）から6年生（P6）までの6年間、中等教育（S：セカンダリー）は日本の中学校と高校をほぼ合わせた構成で、1年生（S1）から5年生（S5）までの5年間です。このうち、P1からS4までの10年間が義務教育です。

(2) 授業での使用言語

幼稚園（crèche、クレシュ）から小学2年生での授業はクレオール語（母語）で行われ、英語とフランス語は第二言語として幼児期から学び始めます。小学3年生からは、基本的には英語が授業の教授言語となり、大半の科目の授業が英語で行われます（一方で、学生の言語能力や教師の判断その他の状況に応じ、クレオール語を補助言語として使用することもあります）。また、個人の成長および社会人形成の中核と考えられている道徳教育（PSGE：個人・社会・市民教育）は、一般的にクレオール語で教えられています。

(3) 技術教育・職業訓練（TVET）プログラム

中等教育では、社会で働く上で必要なスキルや知識を身につけることを目的とした「技術教育・職業訓練（TVET）プログラム」が導入されています。国際中等教育修了資格試験（IGCSE）などの学業成績が芳しくない生徒は、中等教育3年生（S3）の終わりに当該プログラムに進む選択が可能です。当該プログラムでは、中等教育4～5年生（S4～S5）の2年間にわたり、学校や職場等で学習します。

(4) 年間カリキュラム・スケジュール

新学期は1月末に始まり12月上旬に終了します。1年は3学期制で、スケジュールは概ね以下のとおりです。

1月末～4月中旬：第1学期

休暇（3週間）

5月中旬～8月上旬：第2学期

休暇（４週間）

９月上旬～１２月上旬：第３学期

休暇（６週間）

（５） 学校での１日のスケジュール

授業は概ね午前８時００分に始まり、午後２時３０分に終了します。週に１回程度、教員の職務能力向上（PD: Professional Development）の時間が設けられており、その日は授業が午前８時前に開始し、午後１時５０分に終了します。１コマの授業時間は概ね４０分～１時間で、１日あたり６～８コマの授業があります。午前１０時頃に２０～４０分程度の休憩時間が設けられています。政府から給食（朝食、昼食）が無償で提供されます。授業前に読書時間や、授業後にお祈りの時間を設けている学校もあります。

（６） クラス構成

１クラスの人数は概ね１５～３０人で、男女共学です。すべての生徒に平等な学習機会を与える方針のもと、各学年は生徒の学力や才能、学習スタイルに応じて２つ以上のクラスに分けられることがあります。

（７） 授業科目

言語（クレオール語、英語、フランス語）、算数／数学、芸術・美術、理科／科学、技術・職業教育、社会、道徳（PSC教育）、保健・体育、情報通信技術（ICT）が必修科目です。セーシェルでは観光業が主要産業の一つであるため、ホスピタリティ教育を行っている学校もあります。

（８） 中等教育修了後の進路

概ね次の３つに分かれます。

- ① 大学進学（学士取得）に必要な資格を得るためのアドバンス・レベル課程（Aレベル、２年間）への進学
- ② 社会で必要な技術や知識をさらに習得するため、工学、芸術・デザイン、海事、経営、農業・園芸、保健、観光などの分野の専門学校、アカデミー、工科大学等の高等教育機関（１～３年）への進学
- ③ 社会人として働く

（９） 大学

セーシェルには国立大学（文系）が１校のみのため、理系など希望する専攻分野によっては、英国、フランス、マレーシア等の海外の大学に進学する学生もいます。

4. 学校例と学校生活の様子

（１） アンソワヤール・セカンダリー・スクール（Anse Royale Secondary School）

○ マヘ島南部にある公立の中等教育学校です。

○ １日の授業時間は概ね午前８時００分～午後２時３０分で、１授業は４０分、１日の授業数は８コマ程度です。週に１回、教員の能力向上（PD: Professional Development）のためのセッションが設けられており、その場合の授業時間は午前７時４５分～午後１時５０分です。PDセッションは、各教員が抱える悩みや問題について教員間で共有・相談しながら、互いの授業の質を高めることを目的として

おり、教員たちは熱心に指導に取り組んでいます。

○ 午前10時00分または午前10時20分から、約20分の休憩時間があります。授業の終わりにお祈りの時間を設ける場合もあります。また、週に1回、付近の教会に行くこともあります。

○ 学校を訪問すると、ホスピタリティ部所属の学生が出迎えてくれます。授業でホスピタリティを科目として学んでおり、学生たちはおもてなしの心であふれています。



ホスピタリティ部所属の学生などによる歓迎



ホスピタリティを教えるジェニタ先生
(教員歴25年)



教室での授業の様子



バスケットボールの授業



体育の授業



木のつるで作った縄で行う縄跳び（伝統の遊び）



伝統の遊びを教える
芸術・マルチメディア担当のエーベ先生

○外部からゲスト・スピーカーを呼び、生徒の自己啓発教育も行っています。



ゲスト・スピーカーによる授業

○ 教員数を補うため、交流プログラム等を通じザンビアなどの外国から雇われた外国人教員も授業で教えています。

○ 週に1～2日程度、バスケットボールやサッカー、バレーボール、芸術、音楽、環境活動、地理、観光、チェス、映画、フランス語などのクラブ活動が行われています。

○ 授業では、学力向上に加え、芸術や伝統文化、音楽、ダンスにも力を入れており、学生たちの伝統文化への理解や創造力・表現力の向上に適した環境です。

○ 学生たちの休日の過ごし方は、友達と遊ぶ、ビーチに行く、買い物をする、ボランティア活動や教会の活動に参加するなどです。

○ 日本のアニメは比較的人気があり、インターネットのストリーミングサービス等で視聴する学生もいます。



学生たちの休日の過ごし方を教えてくれたセカンダリー3年生（14歳）のアキム君（左）とセカンダリー4年生（15歳）のアリシアンさん（右）

○ 休憩時間中の校内の売店（Tuck Shop）は生徒たちで賑わいます。



売店に集まる学生



伝統菓子

<アンソワヤール・セカンダリー・スクールと日本とのつながり>

2025年1月、北海道大空町の大空高校および高知県本山町の嶺北高校の高校生など約10名が、

日本政府（内閣府）の「万博交流プログラム」でセーシェルを訪問した際、アンソワヤール・セカンダリー・スクールを訪問しました。日本の学生たちは温かく歓迎され、伝統的な音楽、ダンス、ゲーム、料理、芸術などの活動を通じて、両国間で異文化交流を行いました（詳細：https://www.sc.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00423.html）。



日本の高校生がアンソワヤール・セカンダリー・スクールを訪問した際に
両国の学生が共同で制作した友好の壁画

その後、2025年8月末から9月上旬にかけて、アンソワヤール・セカンダリー・スクールや他の地元学校の学生など約15名が、大阪・関西万博の交流のために訪日し、大空高校と嶺北高校を訪問し異文化交流を行いました。両国の学生にとって大変貴重な交流の機会となったほか、セーシャルの学生からは、日本の食べ物のおいしさやコンビニエンスストアの便利さ、エレベーターの速さなどに驚いたという感想が寄せられました。セーシャル帰国後も日本の高校生とメッセージアプリで連絡を取り合うなど、交流を続けているそうです。



万博交流で訪日した感想を教えてくれるセカンダリー3年生（14歳）のグレッグ君（左）と同学年のアナエルさん（右）



S 1 から S 4 の学生を教えるミカエラ先生



伝統料理（クレオール料理）の提供

今回の受け入れを快く準備してくださったベギータ・ラボンテ校長先生（元 J I C A 研修生で、大阪・関西万博交流のセーシェル代表団一行として訪日）をはじめ、インタビューや学内見学などにご協力いただいた先生方や学生の皆様に深く感謝申し上げます。

(2) ポグロー・プライマリー・スクール (Port Glaud Primary School)

- マヘ島南部にある公立小学校です。学校全体の生徒数は約 240 人で、男女比は約半数ずつです。
- クラスは小学 1 年生から 6 年生まであり、1 クラスの生徒数は約 15 ~ 30 名です。
- 授業時間は午前 8 時 00 分 ~ 午後 2 時 30 分です。朝、授業前に読書を行うこともあります。午前 10 時 00 分からは約 20 分の休憩時間が設けられています。



午前 10 時の休憩時の様子



授業中の様子

- フィールドホッケーの強豪校で、これまでの大会で何度も優秀な成績を収めています。
- 言語（英語、フランス語、クレオール語）、算数、理科、社会、芸術、技術 (Technology Enterprise)、保健・体育 (PE)、宗教、道徳などの授業があります。

○ 学校での態度が優秀な生徒を表彰する取組 (Wall of Fame) を行い、生徒の意欲向上につなげています。



廊下の壁に貼られた学校態度が優秀な生徒を称える写真



小学1～6年までの約100名の生徒に技術 (Technology & Enterprise) を教えるイアン先生



小学1～2年に全教科を教えるジェーン先生



伝統ダンスを披露する学生



美術室内にある学生の芸術作品の展示



きれいに整備された図書館



自閉症の啓発月間に関する掲示物



右から、保高希伊派遣員、エメリン・リアズ校長先生、石津知貴二等書記官、ギスレン・ウィリアム副校長先生、フィービー・ローズ職員

今回の受け入れを快く準備してくださったエメリン・リアズ校長、ギスレン・ウィリアム副校長をはじめ、インタビューや授業の見学、伝統ダンスの披露にご協力いただいた先生方および学生の皆様に心より感謝申し上げます。

(3) ベロム・プライマリースクール (Bel Ombre Primary School)

〇マヘ島西部に位置する公立小学校です。校舎からは美しい海が見えます。



校舎から見える海

○生徒数は約250名です。

○授業数は1日に5コマで、1授業は1時間です。

○1日の授業は午前8時20分～午後2時30分で、教員の能力向上（PD）のセッションがある場合は、午前7時45分～午後1時50分となります。



教室での授業の様子

○年に1回、成績が優秀な学生を表彰する取組（Hall of Fame）を行い、生徒の学習意欲の向上につなげています。



成績優秀生に選ばれた生徒の写真掲示

○学生たちの中で人気な活動は、ゲームやロールプレイ、グループワーク、サッカー、空手、ダンスなどです。きれいに整備されたバスケットコートも完備されています。



生徒の関心事項や理科の授業の仕方を教えてくれたジェンヴィエフ先生（小学4～6年の理科、英語、クレオール語を担当。教員歴6年）

○生徒たちが自ら育てる植木鉢や、各学年がそれぞれ世話をするガーデン、車のタイヤやドラム缶を再利用し設置したオブジェ、卒業生が描いた見事な壁画などがあり、校内の美化に努めています。



廊下に並べられた生徒たちが自ら世話をしている植木鉢



ハーブなどが植えられた庭

○自然に囲まれた立地をいかし、教室での学習に加え、学校近くの森や滝などの実際の自然環境下で勉強するフィールド・ワークも行われています。



小学4年生のクラス担任を持ち、小学5年から6年生に英語、仏語、社会、地理、歴史を教えるショーン・カット先生（教員歴7年。教員の傍ら、セーシェル・フランス語教師会（ASEF）の役員やラジオ局でニュース・プレゼンターも務める）。学生の意欲維持の点から、フィールド・ワークや型にはまらない考え方の重要性を語る。



休憩時に混み合う売店（Tuck Shop）



生徒たちの様子

○車椅子の学生が通っているため、その学生に配慮した授業を行い、また校内には車椅子用のスロープも設置されています。

○フランコフォニー国際機関（O I F）から派遣された仏人の仏語教員助手が常駐し、フランス語教育を行っています。

○小学校の敷地内には幼稚園もあります。



絵に色をつける子供たち



雨水をためる貯水タンク
(観葉植物用の水として雨水を再利用)



室内の装飾・美化が行き届いている



タイヤを再利用したブランコ



ステラ・パイエット校長（右）と
贈呈品（卒業生の絵画作品など）を
受け取る石津書記官（左）

今回の受け入れを快く準備してくださったステラ・パイエット校長、学内を丁寧に案内してくださったジャン・アデット・アワオウ副校長をはじめ、インタビューや授業の見学に協力してくださった先生方および学生の皆様に心より感謝申し上げます。

【参考資料（英語）】

“National Curriculum Framework 2013” by the Ministry of Education of Seychelles
<https://belombrepri.edu.sc/wp-content/uploads/2024/02/Seychelles-National-Curriculum-Framework-SR.pdf>

“Education (Amendment) Act, 2017”
<https://seyl.ii.org/akn/sc/act/2017/28/eng@2018-01-04>

“Education Act, 2004”
<https://edu.gov.sc/download/act-13-of-2004-education-act/?wpdmdl=2338&refresh=69145820dc3631762940960>

“Tertiary Education (Amendment) Act, 2022”
<https://www.gazette.sc/sites/default/files/2022-04/Act%20-%202022%20-%20Tertiary%20Education%20%28Amendment%29%20Act%2C%202022.pdf>

“Tertiary Education Act, 2011”
<https://seyl.ii.org/akn/sc/act/2011/12/eng@2000-05-01>

“The Seychelles Framework for Early Childhood Care & Education, 2011”
https://clr.africanchildforum.org/policy%20per%20country/seychelles/seychelles_earlychildhood_2011_en.pdf